

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ○ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容
- (1) 建築場所 沖縄県八重山郡竹富町字タカラ756番1・1757番1・1758番1・1759番1・1760番
- (2) 工事種別 ○ 新築 ・ 増築 ・ 増改築 ・ 改築
- (3) 構造種別 鉄筋コンクリート造
- ・ 木造 (W) ・ 補強コンクリートブロック造 (CB) ・ 鉄骨造 (S)
- 鉄筋コンクリート造 (RC) ・ 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
- ・ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ・ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
- ・ プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)
- (4) 階 数
- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|----|---|
| 棟 | 地下 | 階 | 地上 | 1 | 階 | 塔屋 | 階 |
| 棟 | 地下 | 階 | 地上 | 階 | 塔屋 | 階 | |
- (5) 主要用途 畜産施設
- (6) 屋上付属物 ・ 高架水槽 ・ キュービクル kN ・ 広告塔 ・ 煙 突
- (7) 特別な荷重 ・ エレベータ 人乗 (マシンルームレス ロープ式 油圧式) ・ リフト kN
- ・ ホイスト kN ・ 倉庫積載床用 kN ・ 消火水槽 kN
- (8) 付帯工事 ・ 門扉 ・ 擁壁 ・ 駐輪場 ・ 機械式駐車場
- (9) 増築計画 ・ 有 () ○ 無 ()
- (10) 構造計算ルート X方角ルート (1) Y方角ルート (1)

(1) コンクリート

適 用 箇 所	種 類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質管理強度 F _c =N/mm ²	スランプ cm	備 考
捨コンクリート	○ 普通	・ 15 ○ 18 ・ 21	18±18	15	
土間・犬走りコンクリート	○ 普通	・ 15 ・ 18 ○ 21	21±21	15	
ラップコンクリート	○ 普通	・ 15 ○ 18 ・ 21	18±18	15	
基礎・地中梁	○ 普通	・ 21 ○ 24 ・ 27 ・ 30	24±3=27	15	水シフト比55%以下
柱・梁・壁	○ 普通 ・ 普通	・ 21 ○ 24 ・ 27 ・ 30	24±3=27	15	水シフト比55%以下
細骨材の種類	○ 砂 ○ 山砂 ・ 人工				
粗骨材の種類	・ 砂利 ○ 砕石 ・ 人工				
水の区分	○ 水道水 ・ 地下水 ・ 工業用水				
混和材料の種類	○ AE減水剤 ・ 高性能AE減水剤 ・ コンクリート防錆剤 (NR-1900同等品)				
呼び強度を保証する材齢	○ 2 8 日 ・ 5 6 日				

※単位水量は、185kg/m³ 以下とする。

- | | | | | |
|-------------------|----------------|-----------|------|--|
| (3) 鉄 筋 | 種 類 | 径 | 使用箇所 | 継手工夫 |
| 異形鉄筋 | ○ S D295 A | D10～D16 | 躯体一般 | ◎ 重ね継手
D10～D16
・ ガス圧接継手
D19～
・ 特殊継手
() |
| | ・ S D295 B | | | |
| | ○ S D345 | D19 | 躯体一般 | |
| | ・ S D390 | D29～ | 躯体一般 | |
| 高強度せん断補強筋 | KW785 (SPR785) | K13 (T13) | | |
| 丸 網 | S R235 | | | |
| 溶接金網 (JIS G 3551) | ◎ 格子 | | | |

(4) 鉄 骨				使用箇所	現場溶接	備 考
種 類						
・ SS400	・ SM400	・ SM400A	・ SN400B		・ 有 ・ 無	・ 0.9 F ・ 1.0 F
・ SN490B	・ STKR400				・ 有 ・ 無	・ 0.9 F ・ 1.0 F
・ BCR295	・ BCP235				・ 有 ・ 無	・ 0.9 F ・ 1.0 F
・ SM490C	・ SNR490B	・ SNR490			・ 有 ・ 無	・ 0.9 F ・ 1.0 F
・ SSC400						

- (5) ボルト ○使用箇所の詳細については別途図示とする。

 - ・ 高力ボルト
 - ・ 普通: F8T ・ S10T ・ 認定品 (・ M16 ・ M20 ・ M22 ・ M24)
 - ・ 中ボルト
 - 高力ボルトすべり係数試験 ・ 要 ・ 否
 - 高力ボルト導入張力確認試験 ・ 要 ・ 否
 - ・ アンカーボルト
 - ・ SNR400 M L = mm ナット (・ シングル ・ ダブル)
 - ・ SSR400 M L = mm ナット (・ シングル ・ ダブル)
 - ・ 頭付スタッドボルト
 - φ = L = mm 使用箇所 (・ 柱 ・ 大梁 ・ 小梁)
 - φ = L = mm 使用箇所 (・ 柱 ・ 大梁 ・ 小梁)

(6) 屋根、床、壁

 - ・ ALC版 ・ 壁厚 ・ スライド構法 ・ ボルト止め構法 ・ ロッキング構法
 - ・ 折版 H = 厚
 - ・ デッキプレート 型式 厚

- ・ 嵌め込み式瓦棒葺きとキャップ工法2点固定 材質：フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.4mm
 - ・ ステンレスシーム溶接工法 (H35、@265) 材質：フェライト系ステンレス t=0.4mm
- ◎ 厚1.3塩ビ畜産波板
- ◎ 普通型枠

(1) 地盤調査資料と調査計画

- ⊙ 有 (⊙ 敷地内 ・ 近隣) ・ 無 (調査計画 ・ 有 ・ 無)

調 査 項 目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	有り		静載貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質調査			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデンサウンディング			現場透水試験			P ｓ 探査		

注) 上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

- (2) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること) ※別紙による

[illegible]

注) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4. 地業工事

- | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|-----------|---|----------|---|----------------------------|------|---|--------|---|---|
| (1) 直接基礎 | ・ | ヘタ基礎 | ・ | 布基礎 | ⊙ | 独立基礎 | 試験掘 | ⊙ | 有 | ・ | 無 |
| 深さ G L - 800 | | 支持層一琉球石灰岩 | | 長期許容支持力度 | | 300 kN/m ² (牛舎) | 載荷試験 | ⊙ | 有 | ・ | 無 |
| (2) 杭基礎 | | 支持層 | | | | | | ⊙ | 平板載荷試験 | | |

杭 種	材 料	施工法	備 考
・ RC ・ PRC ・ PHC ・ H鋼 ・ 鋼管 ・ 摩擦杭 ・ SC杭	PRC(・ I 種 ・ II 種 ・ III 種 ・ IV 種) PHC(・ A 種 ・ B 種 ・ C 種) 鋼材 ・ S S 400 ・ S K K 400	打ち込み(「 ϕ 」-「 ℓ 」併用打撃工法) 埋込み(セメントミルク工法) ハイバ-MEGA工法 節杭(認定工法) 又は同等工法	PRC105
・ 場所打ち コンクリート杭	コンクリート F c N/mm2 スラブ セメント量 kg/m3 鉄筋 主筋 SD HOOP SD SD	・ オールケーシング ・ 掘底杭 ・ リバースキュレーション ・ アースドリル ・ ミニアース ・ BH ・ 深礎 { ・ 手掘 ・ 機械掘	第 認定 年 月 日 号

- | | | |
|-----|-------------|------------------------|
| 杭仕様 | ・ 施工計画書承認 | ・ 杭施工結果報告書 |
| 試験杭 | (・ 有 ・ 無) | (・ 打ち込み ・ 載荷 ・ 孔壁測定) |

[illegible]

- (3) 地盤改良工事
- ・ 浅層地盤改良工法
 - ・ 深層混合处理工法

5. 鉄筋コンクリート工事

(施工方法等計画書)

本標準仕様書及び鉄筋コンクリート構造配筋標準図はコンクリートの設計基準強度 (F_c) が 21 N/mm^2 以上、かつ、 36 N/mm^2 以下に適用する。

- **コンクリート**

○ コンクリートは JIS 認定工場の製品とし、施工に関しては、標準図に記載されている事項を除き JASS5 による。

・ 耐久設計基準強度 F_{cd} ○ 一般 ・ 標準 ・ 長期

○ セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。

○ 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

○ 寒中、雪中、その他特殊コンクリートの応用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

○ フレッシュコンクリートの塩化物質測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を用いた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合は、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取分けて3回行い、その平均値を試験値とする。【試験回数は、公共建築工事標準仕様書（平成31年度版）による。】

○ 構造体養生コンクリートについて現場の圧縮強度試験供試体（JASS5 T-603）は、現場中養生、または現場封か養生とし、採取は、打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。

また、打ち込みが150mmを超える場合は150mm3ごとの、その端数ごとに一回を標準とする。

一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回打ち込み以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。

○ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または、同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み経路中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃以下の場合は90分以内、25℃を超える場合は60分以内とする。

○ 締固めは、コンクリート型振動機、型枠振動機または突き棒を用いて行い、鉄筋および埋設物などの周辺や型枠の隅々までコンクリートが充填され、密実なコンクリートが得られるように行う。

○ コンクリートの打継ぎ面は、レイテンズ、脆弱なコンクリート、ゴミなどを取り除き、新たに打ち込むコンクリートと一体となるように処置する。

○ 打ち込み後のコンクリートは、透水性の小さいせき板による被覆、養生マットまたは水密シートによる被覆、散水・噴霧、誤養生剤の塗布などにより潤滑養生を行う。（期間は、JASS5の表8.1を参照）

(2) 鉄筋

○ 鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、JASS5 による。

・ 高強度せん断補強筋は、JIS G3137 に規定される D 種 1 号適合品とする。

○ 鉄筋の加工方法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の組手位置、組手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造設計標準図 (1) (2) または「壁式鉄筋コンクリート構造設計標準図 (1) (2) による。

○ D19未満は、すべて重ね組手とする。組手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。

○ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に1回行い、1回の試験は5本以上とする。

外観検査 ○ 有 ・ 無 引張試験 ○ 有 ・ 無 超音波探傷試験 ○ 有 ・ 無

○ 柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、○ H 型 (タガ型) ・ W 型 (溶接型) ・ S 型 (スパイラル型) とする。

黒島 亨太

工事名称	竹富東久島地区牛舎等建築工事	工事年度	令和 2 年度
工事場所	沖縄県八重山郡竹富町小浜山田 194番・199番	図面番号	避難倉：構造設計標準仕様-1
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	
		図面番号	S—01
構 要	管理建築士	設 計	製 図
機 印		名 称	株式会社 タップ
		資格者氏名	管理建築士 小高 定和
		登 録 番 号	1級建築士 第 172071 号
			登録番号 第 190-1411 号
		所 在 地	沖縄県那覇市上間210番地4

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
d...異形棒筋の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D...部材の成 R...直径
e...間隔 r...半径 c...中心線 l...部材の内寸法距離 h...部材間の内法高さ
ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S.HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。キャップタイ
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	

折曲げ内法寸法Rは、S R235～S D345の鉄16およびD16以下は3d以上、S R295～S D345のD19～D30は4d以上、D41およびS D390は3d以上スラブ筋、壁筋には丸鋼は使用しない。

※片持スラブ、上端筋の先端

(2) 鉄筋中部の折曲げの形状 鉄筋折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼び	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法の寸法(R)
	帯筋	SR235、SR295、SD345	15φ以下	3d以上
	あばら筋	SD295A、B	19φ以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A、B、SD345、SD390	D16以下、D19～D25、D29～D41	4d以上、6d以上、6d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	定着の長さ				特別の定着及び重ね継手の長さ(L ₁)
	普通、軽コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	一般(L ₂)	(L ₃)	下端筋(L ₄)	
		小梁	スラブ		
SD295A、SD295B	30～36	30d または 20d7つかけ	15d		35d または 25d7つかけ
	21	30d または 20d7つかけ			35d または 25d7つかけ
SD345	30～36	30d または 20d7つかけ	15d	25d または 15d フック付き	45d または 35d7つかけ
	21	35d または 25d7つかけ			45d または 35d7つかけ
SD390	30～36	35d または 25d7つかけ	20d		50d または 35d7つかけ
	21	40d または 30d7つかけ			50d または 35d7つかけ

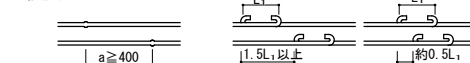
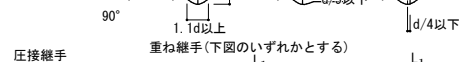
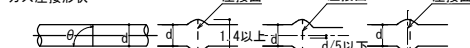
L3：片持ち小梁及び、片持ちスラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。

[注] 許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は40dとする

継手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



(4) かぶり厚さ (単位: mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。



かぶり厚さ

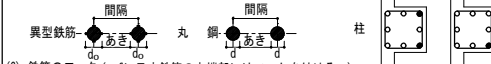
部分	部位	設計かぶり厚さ(mm)		最小かぶり厚さ(mm)
		厚層スラブ	厚層スラブ非耐力壁	
土に接しない部分	屋外	40 ⁽¹⁾	30(20)	
	屋内	40 ⁽¹⁾	30(20)	
土に接する部分	柱・はり・スラブ・耐力壁	50 ⁽²⁾	40 ⁽¹⁾ (30)	
	基礎・擁壁	70	60 ⁽¹⁾	

(注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
(5) ()内は仕上げがある場合。
(6) 土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

※修正箇所は下線を引くこと

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

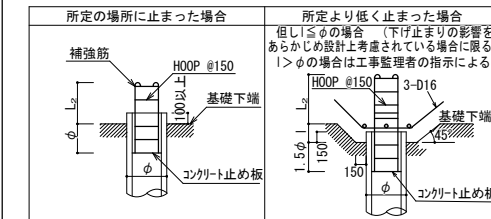


(6) 鉄筋のフック (a-fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

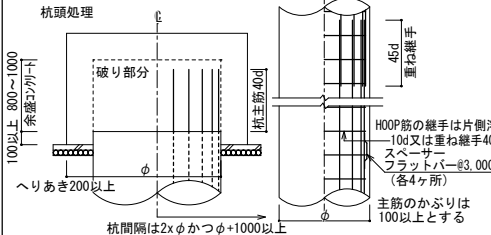
- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁 (基礎梁は除く) の出すみ部分の鉄筋 (右図参照)
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準図に記載する箇所

3. 杭 (地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること。)

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

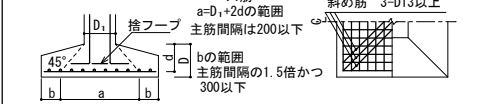


(2) 現場打ちコンクリート杭

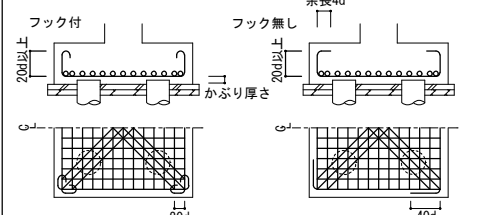


4. 基礎

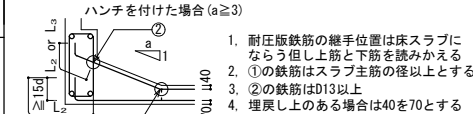
(1) 直接基礎



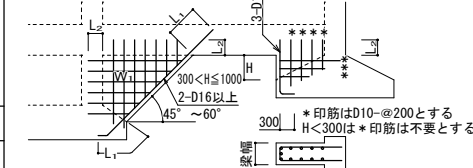
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

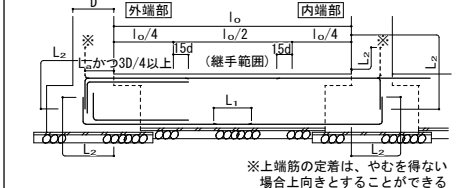


(4) 基礎接合部の補強



W₁の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同様の壁リストにならう

5. 地中梁

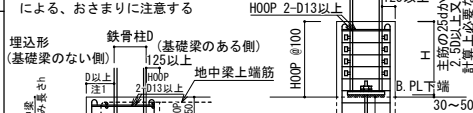
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)
(長期荷重が支配的な場合の継手は7. (2) 大梁継手位置とする)

※上端筋の定着は、やむを得ない場合上向きとすることができる

(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

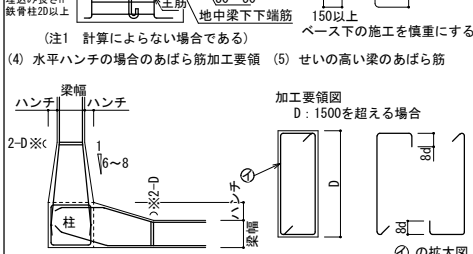


(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋



(注1) 計算によらない場合である

(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (5) せいの高い梁のあばら筋

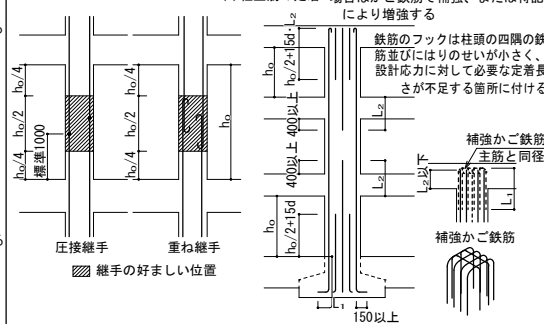


※ 一般のあばら筋と同様のものを2本束ねる

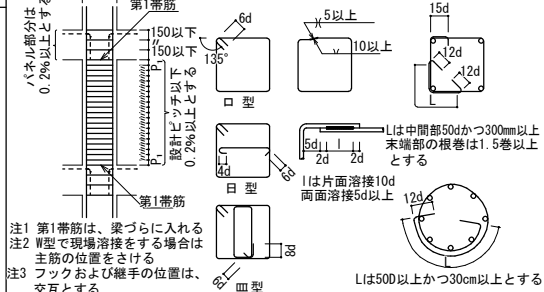
①の拡大図

6. 柱

(1) 柱主筋の継手



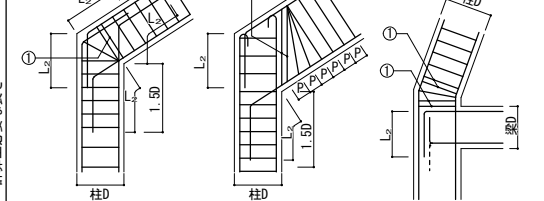
(2) 柱主筋の定着



注1 第1帯筋は、梁づらに入れる
注2 W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注3 フックおよび継手の位置は、交互とする

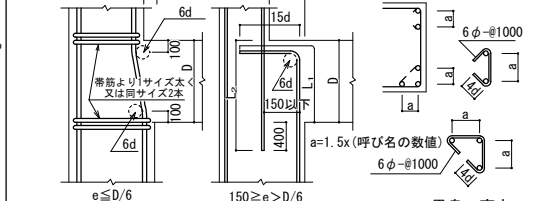
(4) 斜め柱・斜め梁

○柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一 ○柱幅と斜材幅が異なる
柱脚で斜材となる



注1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとしφ100以下とする
注2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5) 絞り



黒島 亨太

工事名称	竹富美ら島地区牛舎等建築工事	工事年度	令和2年度
工事場所	沖縄県八重山郡竹富町字小浜山田194番1・199番1	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮尺	—
図面番号	S-03	名称	株式会社 タップ
描要	管理建築士 設計 製図	資格者氏名	管理建築士 小濱 定和
検印		登録番号	1級建築士 第172071号 登録技士 第129-1411号
		所在地	沖縄県那覇市上元210番地4

ボーリング柱状図

調 査 名 竹富美ら島地区建築設計委託業務

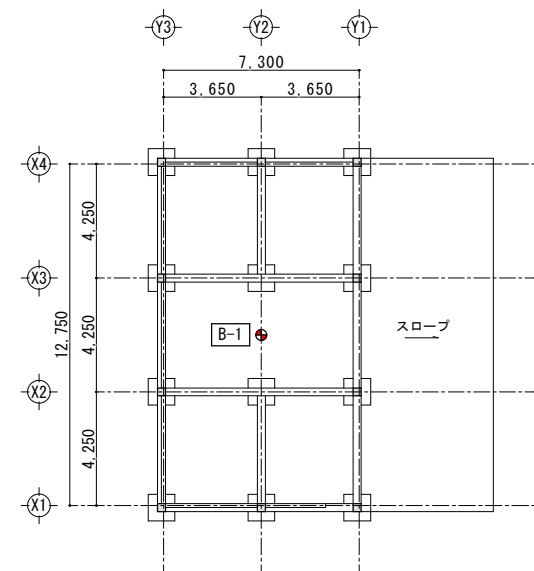
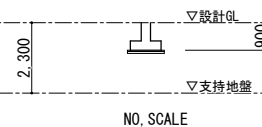
ボーリングNo							
---------	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	B-1 (黒島 亨太 氏)	調査位置	竹富島上島地区			北緯	
発注機関	公益財団法人 沖縄農林業振興公社		調査期間	令和 1 年 12 月 20 日 ~ 1 年 12 月 20 日		東経	
調査業者名	株式会社 ダップ	主任技師	調査代理人	コア 康宏 下里 宣宏		ボーリング責任者	下里 宣宏
調査位置	角 150° 方 北 270° 方 90° 方 東 0° 方 南		地盤調査	鉛直 水深		使用機器	ハンマー落下用エンジン
調査深度	12.67m		試験機	YBM-05DA-2			半自動型
総掘進量	4.20m		エンジン	TF70V-E			SP257

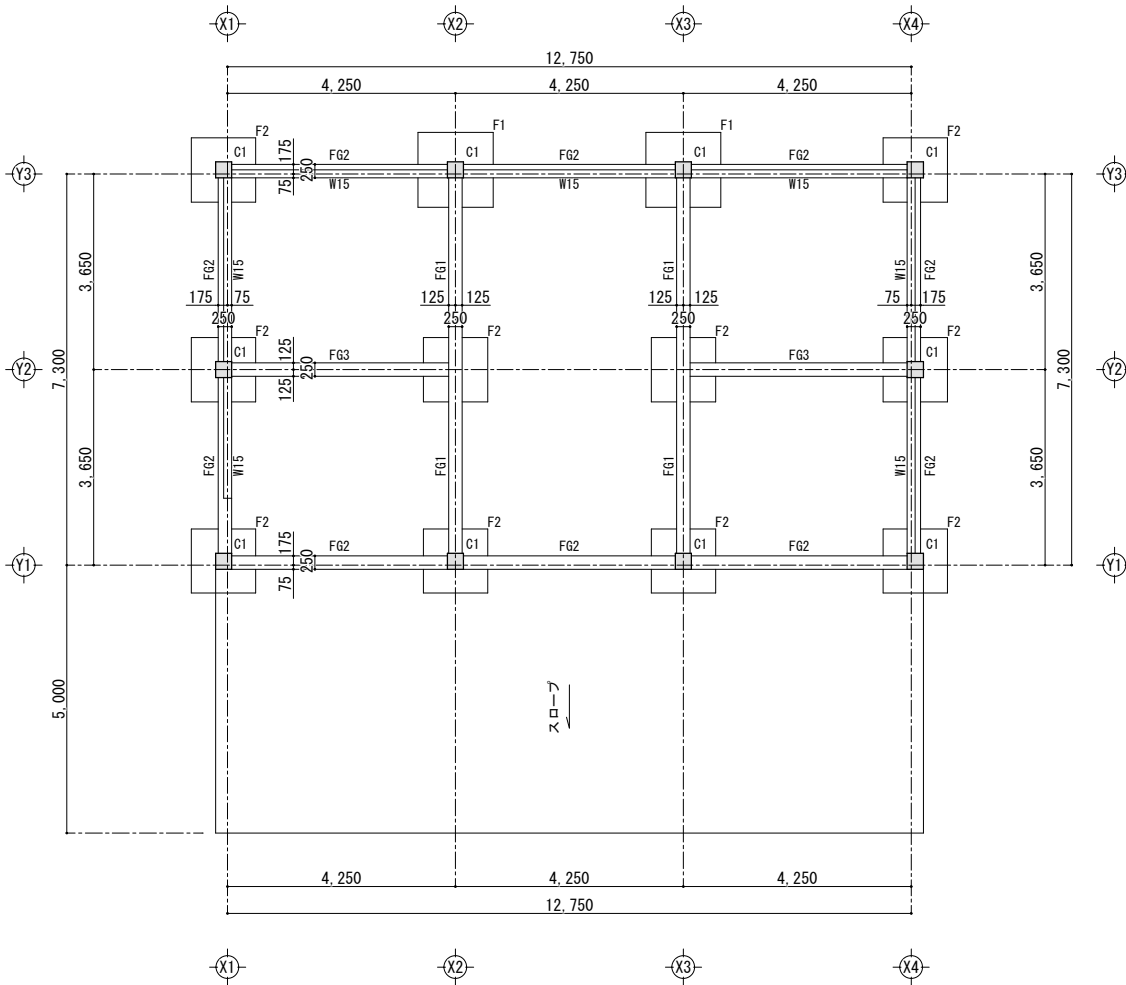
標尺	層高	深度	柱状	土質	色相	相對密度	記号	孔内水位(m) / 調査月日	標準貫入試験		位置	試験名 および結果	試験番号	採取方法	管内試験()
									深さ 打撃回数 0 10 20 度	打撃回数 貫入量 10 20 30 (cm)					
(a)	(a)	(a)	(a)	図	分	観	度	事			N	→ 概			
									深さ (m)	0	10	20	30	40	50
1						褐 / 黄褐色			1.15	2	2	3	7		
2	10.55	3.10	2.00			粘性土			1.45	12	18	20	30	50	
3						凝灰岩			1.35	50	55	57	60	80	
4	8.47	3.10	4.30						1.40	50	55	57	60	80	
5									1.35	50	55	57	60	80	
6									1.40	50	55	57	60	80	
7									1.30	50	55	57	60	80	



地質調査位置図 S=1/200

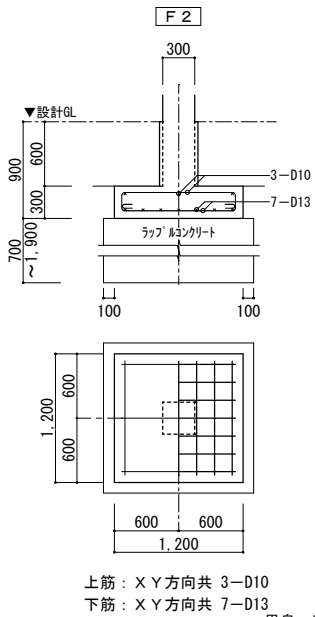
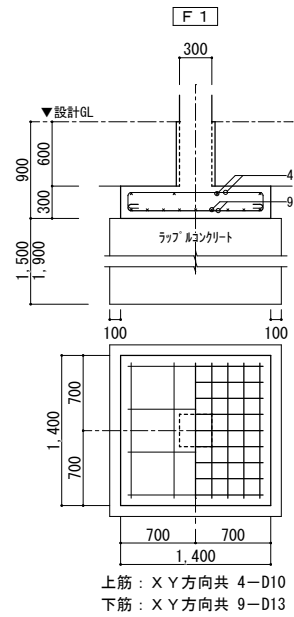
黒島 亨太

工事名称	竹富あみ島地区牛舎等建築工事	工事年度	令和 2 年度
工事場所	沖縄県八重郡竹富町字小浜山田 194番・199番	図面名称	農具庫：柱状図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮尺	1/200
		図面番号	S 〇〇5
摘 要	管理建築士 設 計 製 図	設計者 氏名	株式会社 タップ
		資格者名	管理建築士 小濱 定和
		登録番号	職登録第 172077 号 登録番号 190-1411 号
検 印		所在地	沖縄県那覇市上野210番地



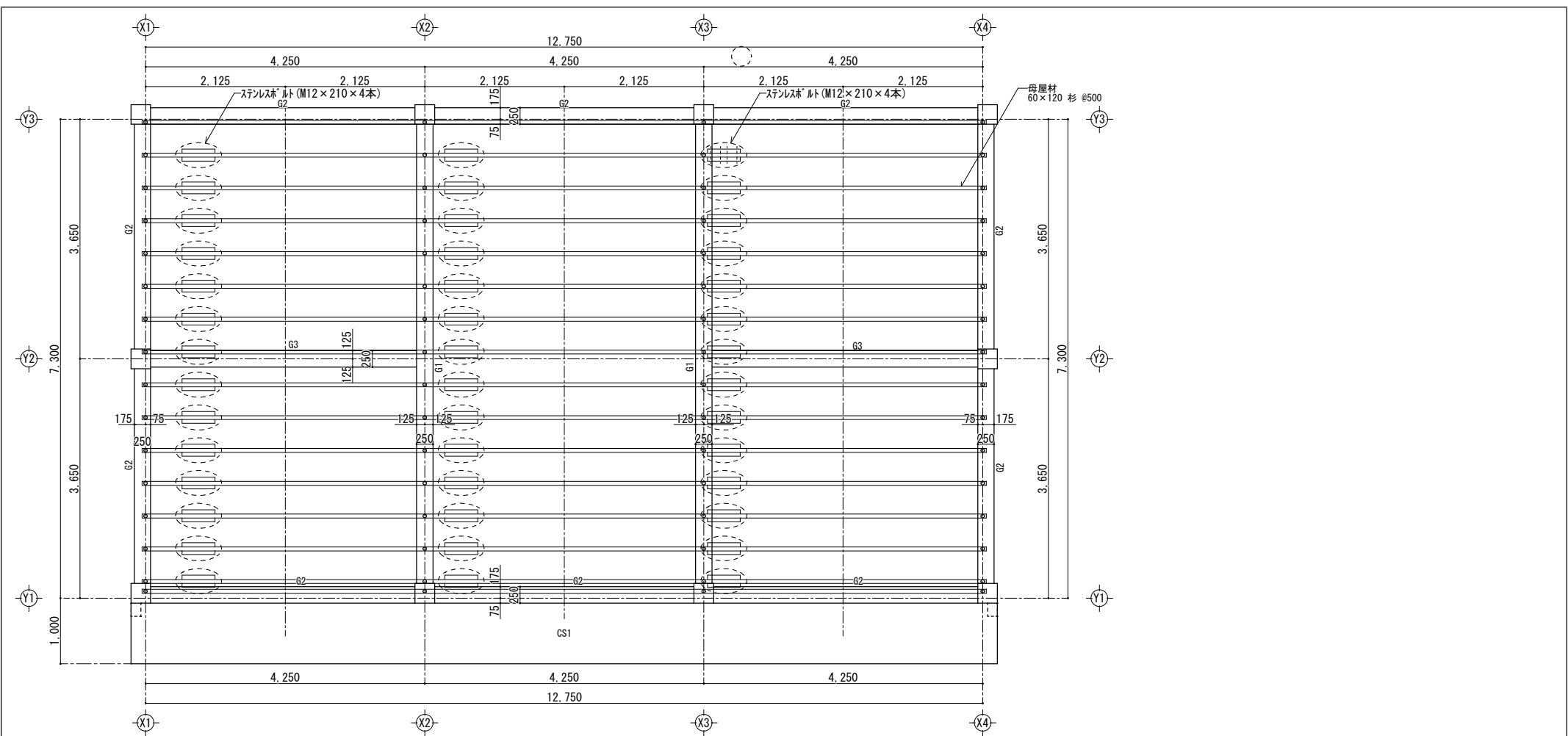
基礎伏図 S=1/100

基礎詳細図 1/50



- 使用材料
- 土間コンクリート・配筋
- ・ 厚 100mm 土間コンクリート
 - ・ 厚 100mm 砂利地業
 - ・ 溶接金網 5×150×150

工事名称	竹富美ら島地区牛命等建築工事	工事年度	令和2年度
工事場所	沖縄県八重山郡竹富町字小浜山田194番1・199番1	図面名称	農具庫・基礎伏図・基礎詳細図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮尺	1/50・1/100
図面番号	S-06	図面番号	S-06
摘要	管理建築士	設計	製図
検印		設計者	資格者氏名 株式会社 タップ
		登録番号	管理建築士 小濱 定和
		所在地	1級建築士 第 172577 号 登録番号 第 190-1411 号 沖縄県那覇市字上間210番地4



R階梁伏図 S=1/60

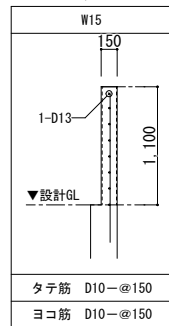
R階梁リスト 1/50

符 号	G1	G2	G3
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面
断 面			
B × D (mm)	250 × 600	250 × 450	250 × 400
上端筋	1段筋 2-D16 2段筋 2-D16	2-D16 —	2-D16 —
下端筋	2段筋 2-D16 1段筋 2-D16	— 2-D16	— 2-D16
スターラップ	□-D10 @200	□-D10 @200	□-D10 @200
腹 筋	—	—	—
幅 止 筋	—	—	—

柱リスト 1/50

符 号	C1
断 面	
X × Y	300 × 300
主 筋	8-D16
フ ー プ	D10 @100

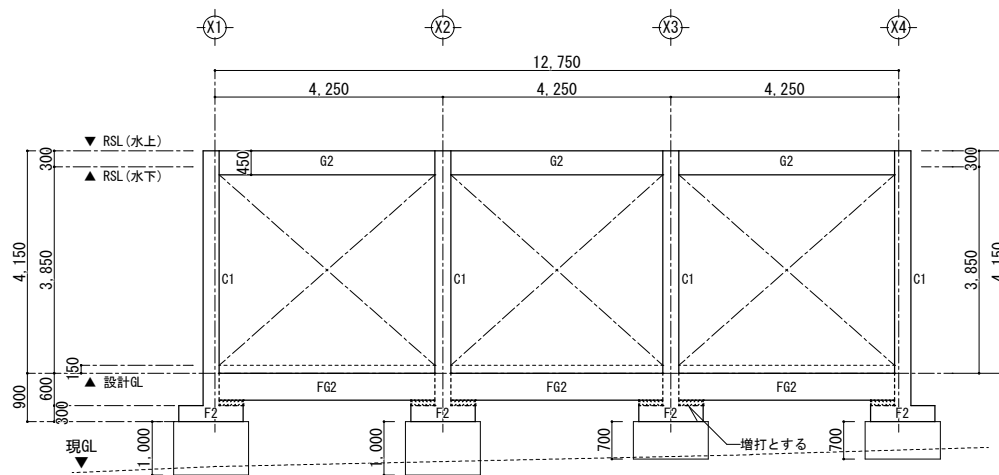
壁リスト 1/50



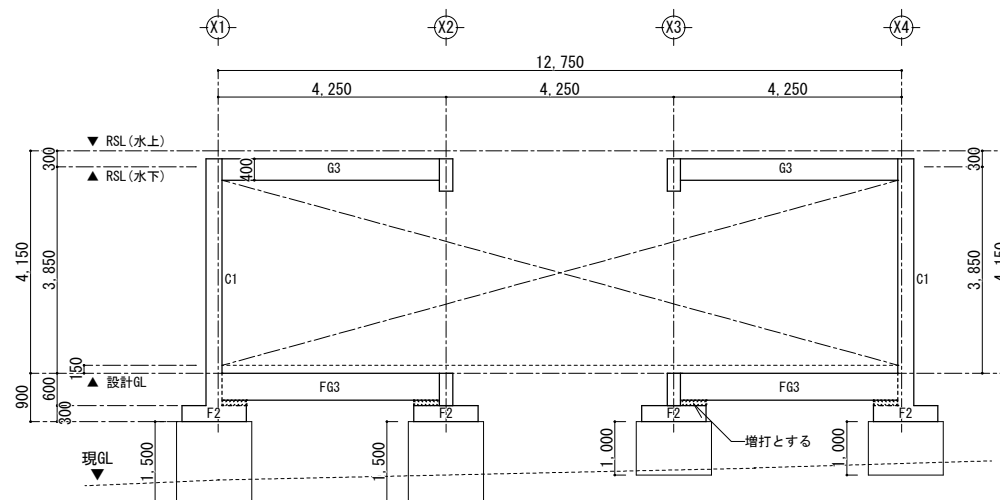
スラブリスト ※ 特記の無い限り短辺方向を主筋とする。					
符 号	床 厚	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考
CS1	基 端	130	上 端 筋	D10@200	片持ちスラブ
	先 端	120	下 端 筋	D10@200	

黒島 亨太

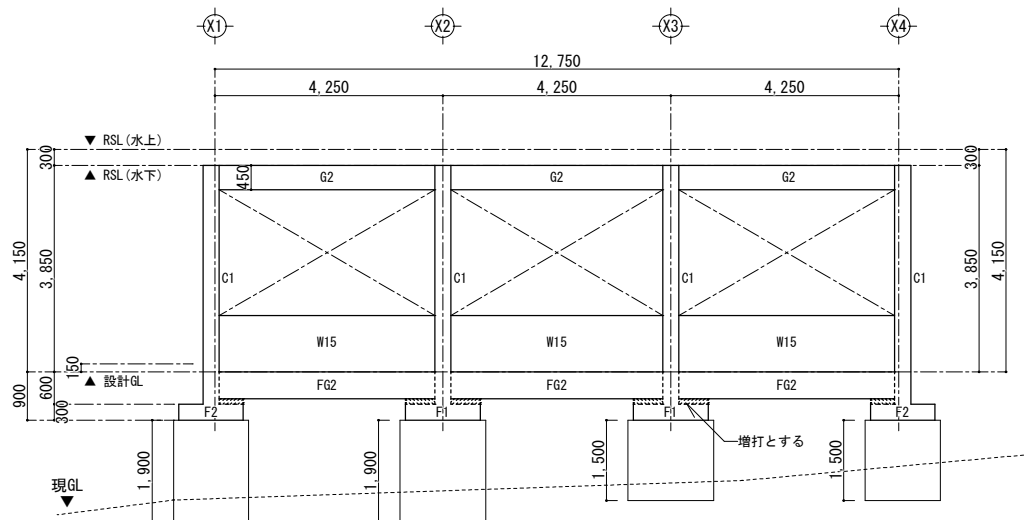
工事名称	竹富美ら島地区牛舎等建築工事	工事年度	令和 2 年度
工事場所	沖縄県八重山郡竹富町字小浜山田 194番1・199番1	図面名称	農具庫：R階梁伏図・各リスト表
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	1/50・1/60
摘要	管理建築士 設 計 製 図	図面番号	S — 07
検 印	名 称	株式会社	タツプ
	資格者氏名	管理建築士	小濱 定和
	登録番号	1級建築士 第 172077 号 登録番号 第 180-1411 号	
所 在 地	沖縄県那覇市字上間210番地4		



Y1 通り軸組図 S=1/100



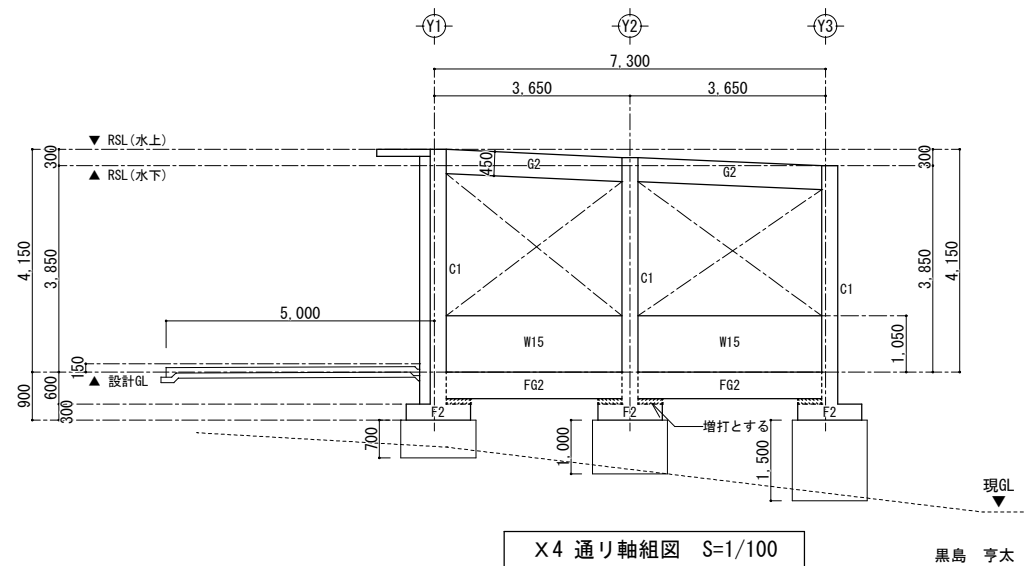
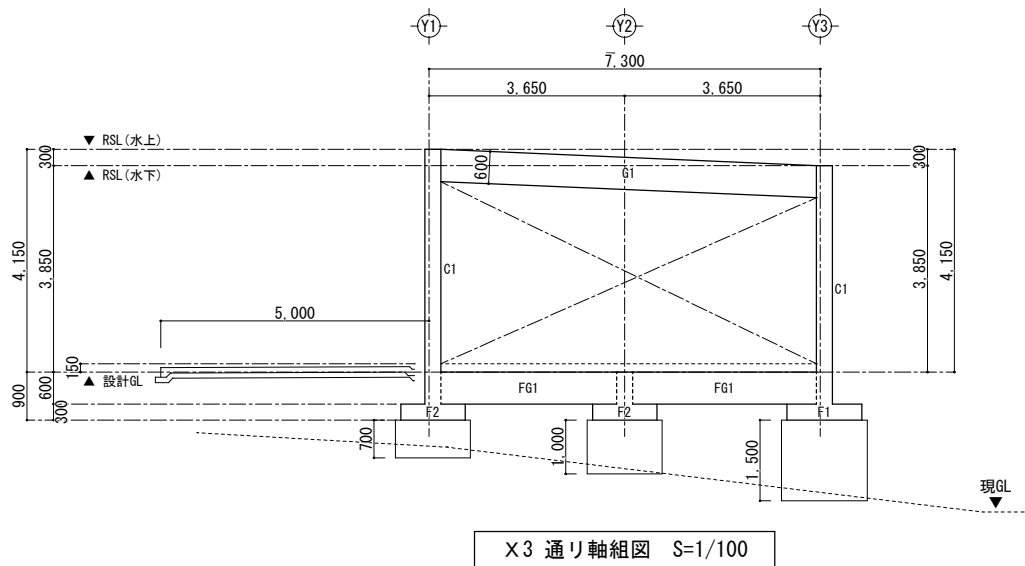
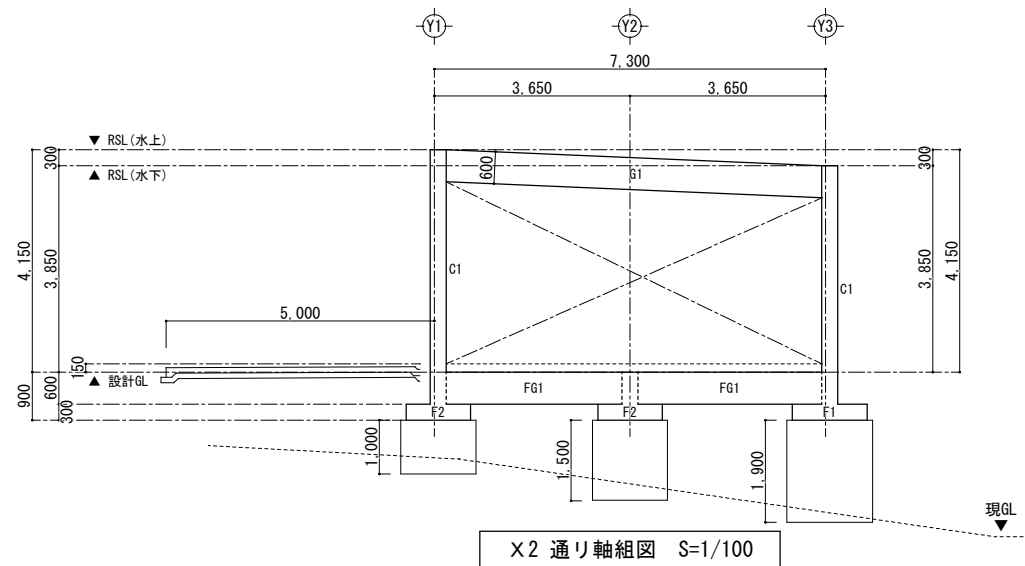
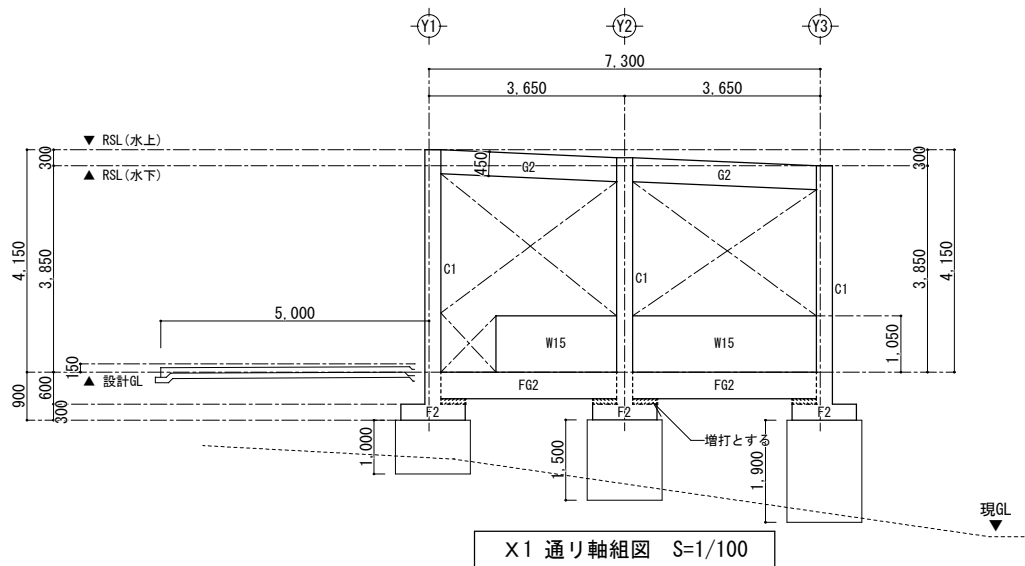
Y2 通り軸組図 S=1/100



Y3 通り軸組図 S=1/100

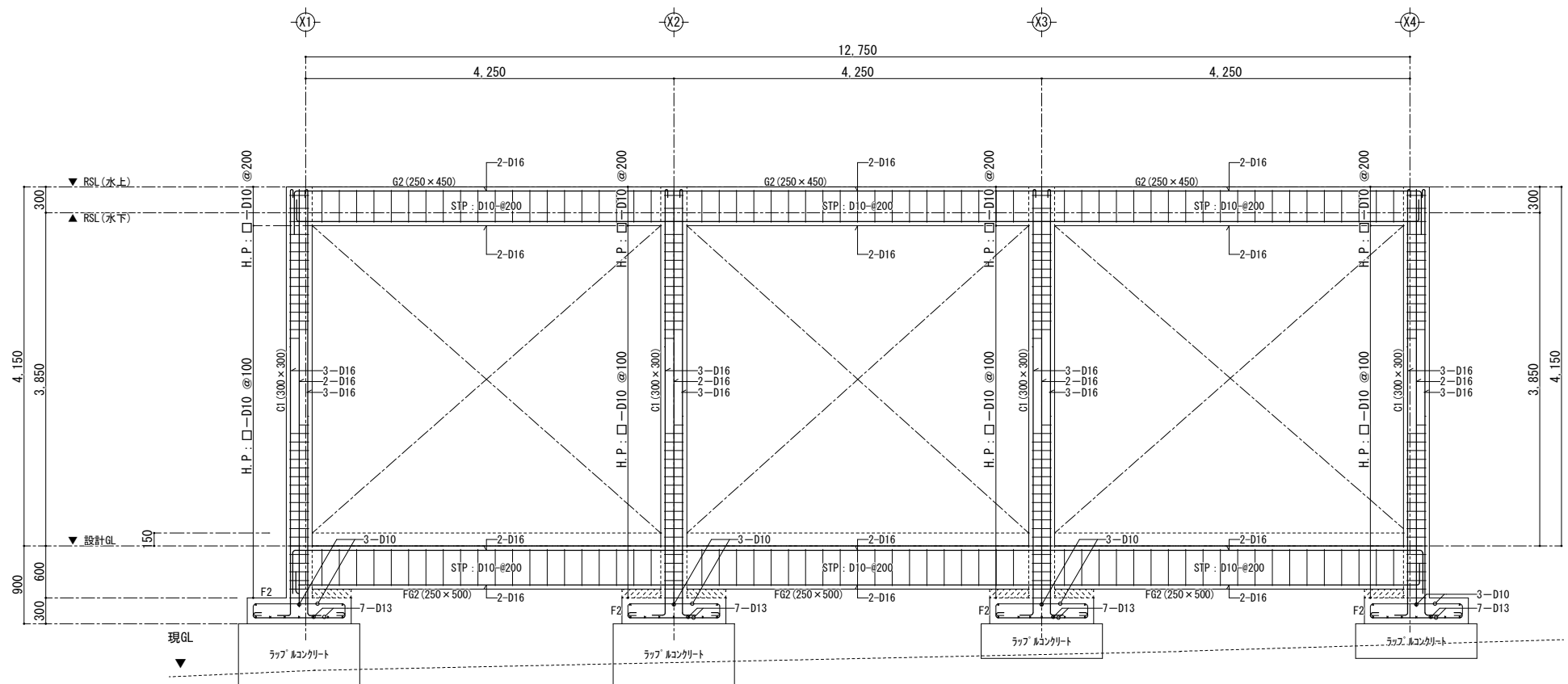
黒島 亨太

工事名称	竹富美ら島地区牛舎等建築工事	工事年度	令和 2 年度
工事場所	沖縄県八重山郡竹富町字小浜山田 194番1・199番1	図面名称	農具庫：軸組図(1)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	1/100
		図面番号	S — 08
摘 要	管理建築士 設 計 製 図	名 称	株式会社 タップ
検 印		資格者氏名	管理建築士 小濱 定和
		登録番号	1級建築士 第 172077 号
		所 在 地	登録番号 第 190-1411 号
			沖縄県那覇市字上間210番地4



黒島 亨太

工事名称	竹富美ら島地区牛舎等建築工事	工事年度	令和 2 年度
工事場所	沖縄県八重山郡竹富町字小浜山田 194番1・199番1	図面名称	農具庫：軸組図(2)
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	1/100
		図面番号	S - 09
描 要	管理建築士 設 計 製 図	名 称	株式会社 タップ
検 印		資格者氏名	管理建築士 小濱 定和
		登録番号	1級建築士 第 T72077 号
		所在地	沖縄県那覇市字上間210番地4



Y1 通り軸組図 S=1/50

黒島 亨太

工事名称	竹富美ら島地区牛舎等建築工事	工事年度	令和 2 年度
工事場所	沖縄県八重山郡竹富町字小浜山田 194番1・199番1	図面名称	農具庫：架構配筋図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	1/50
描 要	管理建築士 設 計 製 図	図面番号	S — 10
検 印		名 称	株式会社 タップ
		資格者氏名	管理建築士 小濱 定和
		登録番号	「職理建築士」第 172077 号 登録番号 第 190-1411 号
		所 在 地	沖縄県那覇市字上間210番地4